

# アグリ筑西



まだまだ寒い日が続きます。インフルエンザが流行しているので、予防を心がけましょう。



## 2019 2月号

県西農林事務所 経営・普及部門  
(筑西地域農業改良普及センター)発行  
Tel : 0296(24)9206 Fax : 0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！→



## 筑西地域プロジェクト実績発表会を開催！

1月15日、筑西合同庁舎において、筑西地域プロジェクト実績発表会を開催し、管内農業後継者クラブ員や関係機関など60名が参加しました。

当日は、筑西4Hクラブ下館支部・同関城支部・協和園芸4Hクラブ・大地のめぐみの各代表者によるプロジェクトの実績発表が行われたほか、国立研究開発法人 農研機構農村工学研究部門の森山英樹氏による「農業施設の気象災害と対策について」と題した講演会を開催しました。

プロジェクト発表では、熱のこもった発表と活発な質疑応答が行われ、農業者代表等の審査員による厳正な審査の結果、筑西4Hクラブ下館支部の塚越浩明さんが最優秀賞を獲得しました。塚越さんは、筑西地域代表として、1月29日(火)に行われる県のプロジェクト実績発表会に出場します。なお、塚越さんの発表内容は裏面に記載しておりますので、ご覧ください。



4Hクラブ員による発表の様子

### 発表課題名

#### <最優秀賞>

「水田農業の規模拡大における技術導入の検討」

筑西4Hクラブ下館支部 塚越浩明さん

#### <優秀賞>

「日本一のこだますいか産地の更なる発展に向けて～私たち若手生産者ができること～」

協和園芸4Hクラブ 大久保慎也さん

「水田畦畔の除草作業の省力化と経費の削減」

筑西4Hクラブ関城支部 本橋祐太さん

「露地野菜経営のレベルアップ」

大地のめぐみ 小林勉さん



## 筑西地域女性農業者研修会を開催！



1月17日、協和公民館の調理室において、筑西地域の女性農業者12名が参加し、料理研修会を開催しました。

管内で農産加工活動を行う鈴木真美子氏を講師に招き、「糶を使いこなそう！塩糶・しょうゆ糶のアレンジ料理」と題して、糶を料理に活用するメリットを学び、塩糶・しょうゆ糶・甘糶を活用したオリジナルレシピについて手ほどきを受けました。受講者からは「糶の使い方がわかり有意義な研修会だった」等の感想が聞かれ、また受講者同士の交流を深める上でも良い機会となりました。普及センターでは今後も筑西地域の女性農業者活動を支援していきます。



糶を活用した調理実習の様子



## 筑西市で梨の担い手対策集落座談会を開催！



筑西市内の旧下館・関城地区は茨城県の梨生産をけん引する一大産地ですが、農業者の高齢化や園の高樹齢化等により、年々栽培面積・生産量が減少しています。梨農家の中には第三者への継承を希望する経営体もありますが、希望するタイミングで継承者が見つからず、園の伐採・縮小を余儀なくされることも少なくありません。

筑西市果樹産地協議会では、このような問題を解決する目的で、11月30日、12月21日に、下館共同梨選果場部会の布川地区・房山地区と関城梨組合の関城地区等を対象に梨の担い手対策に係る集落座談会を開催しました。

今回の座談会では、まず産地の現状を把握し、今後の方向性を明確にする目的で、地域の梨園について白地図を現在廃園、5年以内に縮小・廃園、6年以上栽培継続する園に色分けしました。今後は、結果を集計して、園地情報と地図情報を連動させたポリゴンマップ※の構築を予定しており、産地全体での園地情報の共有と継承希望者への情報提供に役立てていく予定です。

普及センターでは、引き続き長期的な視野を持って、果樹産地の担い手対策に取り組んでいきます。

※ポリゴンマップ・・・区画情報を表示した地図



集落座談会の様子



## H30年度筑西地域プロジェクト実績発表会 最優秀賞！

### 水田農業の規模拡大における技術導入の検討 ～筑西4Hクラブ下館支部 塚越浩明～

#### <発表要旨>

私は筑西市で水稻・麦類・大豆の普通作経営を行っている。私が就農した8年前は110haの経営であったが、現在は190haまで経営規模の拡大が進み、コシヒカリに代わる多収品種の導入による作期分散と、直播栽培の安定が課題の一つとなっている。そこで多収品種「あさひの夢」の直播栽培について、経営への効果確認と、収量向上のための課題を明らかにすることを目的とし、移植栽培と乾田直播、湛水直播栽培による収量及び労働力、コストの比較調査を実施した。

その結果、収量は移植に対し乾直が38kg/10a、湛直が71kg/10a低かった一方で、資材費は移植と直播で大きな差はなく、さらに育苗作業の削減等による労働時間の短縮や補助金の違いにより、所得試算では乾直は移植と同等となった。また乾直は、他の栽培様式との作業分散が可能な点で大きなメリットがあった。

さらに、収量コンバインのデータを基に、直播での減収の原因も考察した。その結果、乾直では、保水性が低いほ場、作業場からの距離が遠いほ場において収量が低い傾向が見られ、水管理が原因である可能性が示唆された。また、湛直においては近接したほ場でも収量にばらつきが見られ、出芽期の落水不足等の栽培管理の問題と、施肥管理が原因である可能性が示唆された。

次年度以降は、直播栽培での収量向上、さらなる省力化のための設備導入等による経営効率化にも取り組むことで、経営規模の拡大に対応し、地域の農業と農地の保全に貢献していきたい。



### 普及員のひとりごと ～袴塚 紀代美～

皆様、お正月のお餅はどのように召し上がりましたか？先日、生産者の方とお話していたところ、筑西市でも県北の我が実家と同様に塩鮭でお餅を食べる慣わしがあるお宅（地区？）があると聞きました。この慣わし一体何処が発祥なのでしょう？

#### 編集後記

プロジェクト発表会での各4Hクラブ員の発表は、どれも素晴らしい内容でした。発表者の皆さまはお疲れ様でした。今瀬

皆さまからのご意見・情報をお待ちしております。